

歴史散歩

第三回

校友会主催の

第3回歴史散歩

が11月18日(土)開催された。お茶の水駅に校友、学生が集い、神田川にかかる聖橋①を渡り相生坂(昌平坂)を下り、湯島聖堂②へ。

聖堂内唯一の木造建築物で、関東大震災でも焼けなかった「入徳門」をくぐり直前に、本日の講師である江戸文化歴史検定1級合格の秋山修、関一成両先生が紹介され、2班に分かれスタート。聖堂内には、高さ4.57mの孔子銅像や屋根に想像上の神魚が乗った大正殿があり、お寺と違った中国の雰囲気を感じた。

道をへだてて、大黒様、恵比寿様、将門命が奉られている神田明神③へ。本殿にて玉串を捧げ全員でお祓いを受けた。「明神下の岡引き銭形平次」の碑があるが、架空の人物である。昔のテレビドラマを懐かしんだ。急こう配の男坂と緩やかな女坂があり、男坂を下る。途中、文化財に指定されている戦前の店舗形式と、江戸時代からの建築様式を伝える遠藤家の旧店舗(井政)④を見ながら坂を下ると、聖橋から湯島天神にまっすぐ続く坂道にでる。途中、関東に居を構えながら平家方に味方し、敵に首を取られても、見苦しくないように白髪を黒く染めていたという斎藤別当実盛住居の地が実盛坂⑦としてある。この坂も現在は急な長い階段であり、この界隈は坂が多く、高低差があるところと改めて感じた。

日本武尊と姫を祀ったのが始まりという妻恋神社⑤、柳沢吉保を通じ將軍綱吉の篤い信任を得た浄厳律師が創建した霊雲寺⑥を見学して、徳川家光の乳母、大奥総取締



講師をしていただいた秋山先生



JRお茶の水駅を出発し、聖橋を渡り湯島聖堂へ



聖橋の階段を降り、相生坂を下るとすぐに湯島聖堂の入口が



大きさに圧倒される孔子銅像。昌平坂の名の由来になった昌平は孔子の生まれた郷の名である



秋山先生と同様に今年も講師をしていただいた関先生

「春日野局」の墓がある麟祥院⑧へ向かう。

朝廷との交渉の前面に立つなど、松平信綱、柳生宗矩と共に家光を支えた一人に数えられた。墓に立つ無縫塔は四方に穴が開いており、死後も目を光らせているといういわれがある。散歩最後の湯島天神⑨は、祭神が学問の神様として知られる菅原道真公の為、受験シーズンには多くの学生が訪れる。湯島天神男坂を下った所に江戸時代には湯島天神の表門にあたる場所に水琴窟でも知られる心城院(湯島聖堂)⑩がある。

昨年訪れた「目黒不動」「谷中感応寺」と共に、江戸の三大富の一つである。散歩のあと、経済学部校友の店で、昭和22年創業の、かりんとう屋「花月」⑪に立ち寄り。お土産に皆にかりんとうを頂いた。約3時間半の散歩のあと、校友と学生との交流を兼ねて懇親会が開かれ、和気藹々とした雰囲気の中、心地良い疲れを癒し散会となった。

湯島聖堂



湯島聖堂前で2班に分かれて出発



孔子の墓のそばに植えられている「楷」の木の下で孔子像についての説明がされた



聖堂内唯一の木造建築である入徳門



かつては夏の飲物として江戸時代の風物詩であった甘酒、米麴から作られた甘さが嬉しい冷たい甘酒を飲む事ができる

アニメの絵馬やお守りがおかれていた



3 神田明神

神田神社 (神明明神) 入口の大鳥居、わきに江戸時代から続く甘酒屋「天野屋」がある



七つの石鳥居をくぐり、お参りするとご利益があるという信仰・慣習があり、神田明神境内でする事ができる「境内末社めぐり」がある



小説やTVで知られる銭形平次の塚もあり、手すりも寛永通宝が彫られている



獅子は我が子を千尋の谷に落とすの言い伝えの像



江戸時代の雰囲気醸し出す境内



今回、参加者全員がご祈祷とお祓いを受けるために宮司の後をついて御昇殿に向かった



恋愛に限らず、人間関係や仕事関係の中を取り持つ縁結びの神様「大黒様像」。石造りでは日本最大



入徳門をくぐり階段を上ると、杏壇門の向こうに湯島聖堂の本殿大成殿が現れる

湯島聖堂



大成殿の屋根、流れ棟には「鬼状頭」という鯰に似た神魚がのっている



大成殿の屋根、流れ棟には「鬼龍子」という狛犬に似た聖獣が鎮座



大成殿の扉に立つと中国に來たと錯覚をおこす



大成殿には孔子像の他、孔子の高弟たち、四賢像（孟子、曾子、顔子、子思）が安置されている



神田明神

お祓いを受けた後、お神酒とお守りをいただき笑みがこぼれた

頭をたれ、神妙な面持ちで厄除け、商売繁昌などのお祓いを受けた校友会員と在学生



商売繁盛を祈禱していただきお神酒をいただいた山本茂雄校友会副会長



ご祈祷、お祓いの代表は猿谷吉裕幹事長

いただいたお守り



④ 神田明神男坂の脇にある遠藤家の旧建築物



今回の参加者全員の記念撮影



8

麟祥院

時の権力者・柳沢吉保を通じ將軍綱吉の信任のもと浄巖律師が1641年に創建した真言宗、幕府の永代期願書



参加した在学生も思わず合掌



「江戸名所図会」を手に妻恋神社の歴史などを説明をする



5

妻恋神社

「江戸名所図絵」では朱色で表現されているが現在は石造りになっている

霊運寺

6



春日の局の墓がある麟祥院



四方に穴があいている特異な形状の墓は死後も目を光らせているというわれがある



春日の局の墓の前で説明する秋山先生



春日の局の墓には葵の徳川の紋と稲葉家の紋が標されている



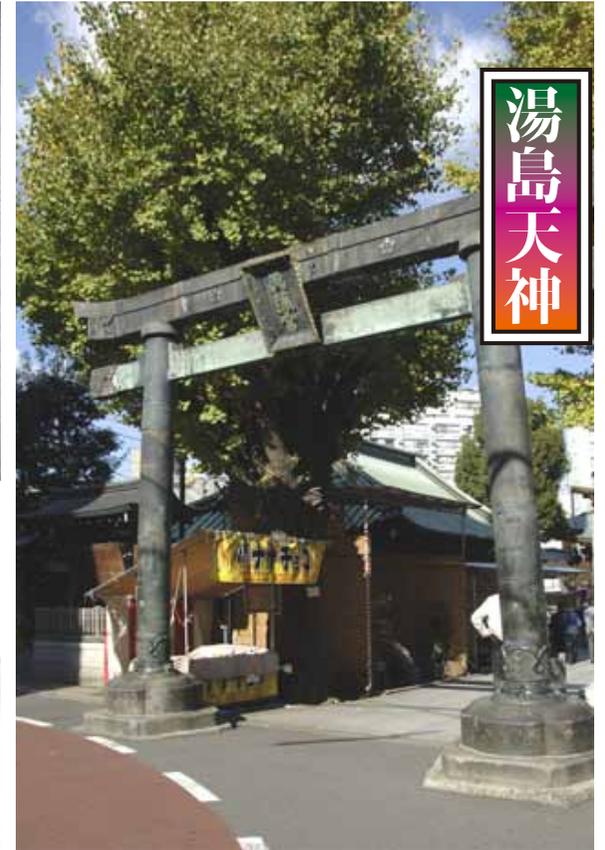
7 斎藤別当実盛住居の地があった実盛坂。かつて坂下には「実盛塚」や「首洗いの井戸」があったという



参拝にする在學生と校友会の方々



手を水で洗い身を浄めて参拝に
学業成就・合格祈願で特に知られる湯島天神の拝殿（本殿）



湯島天神

湯島天神の鑄銅製の鳥居。銅は錆びる（緑青）が朽ちる事が無いので銅像などにも使用されている



1850年にたてられた「奇縁氷人石」迷子探しのための石柱。迷子がでたとき子どもの名や特徴をを右側に貼って情報を求めた



湯島天神の男坂を下るとすぐ左が心城院



「撫で牛」と信仰される臥牛像。願い事を牛の部位をさわること託した



湯島天神

『婦系図』の作者・泉鏡花の筆塚。『婦系図』は、湯島を舞台にした悲恋の長篇小説で明治40年に「やまと新聞」に掲載され、翌年出版された



11

昭和20年代からつづく「ゆしま花月」日大OBの店でもあり、職人のこだわりが感じられるかりんとうの店である



入るとすぐ左に水琴窟があり、竹筒から音色を聞く事ができる



案内にも書かれているように江戸名水のひとつ「柳の井戸」がある事でも知られる



10

心城院

湯島天神の別当寺であった天台宗喜見院の「宝珠弁財天堂」と称されていたが、その後建立当時の天台宗に属し、寺名を「心城院」改められた。通称は湯島聖天

